

## VII 鳥取県の環境に適したカラマツ初期保育技術の確立

(実施期間:令和5年度～7年度 予算区分:県単 担当:池本省吾)

### 1 目的

カラマツは初期成長が早く、材の強度に優れ、ニホンジカ(以下、シカ)の食害にも比較的強いことなどから本県の新たな造林樹種として県内で注目されている。本来カラマツは信州以北の主要な造林樹種であるため、本県の環境に適したカラマツの初期保育技術を確立することを目的とする。

### 2 実施概要

#### (1) 方法

岩美町蒲生(標高 330m)にカラマツポット苗 299 本、スギ裸苗 125 本を植栽し、下刈りを省略して下草を繁茂させることでシカの食害を軽減できるか試みた。下刈りは、①全刈り区(通常の下刈り)、②高刈り区(刈高約 40cm)、③無下刈り区の 3 つに分け 7 月下旬に行った。植栽後、定期的に苗木の食害及び成長を調査した。また、7 月上旬に各区に自動撮影カメラを設置し、11 月上旬までシカの出現状況を記録した。

#### (2) 結果

1 成長期経過後の苗木の成長は下刈り方法による差はみられなかった(図1)。シカの出現頻度は下刈り後、全刈り区で増加、高刈り区で一旦減少後に増加、無下刈り区では大きく減少した(図2)。食害は下刈り後いずれの処理区でも増加し、とくに全刈り区では急激に増加した(図3)。これらのことから、下刈りを省略することでシカ出現頻度が減少し、食害の軽減に一定の効果があることが示唆された。

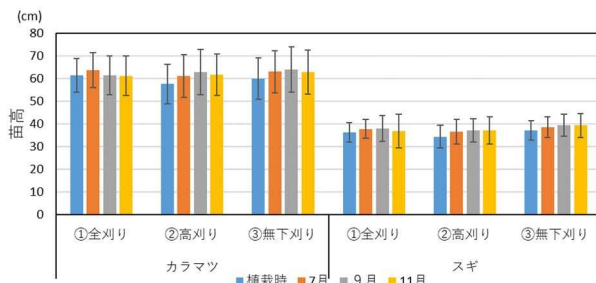


図1 カラマツ・スギ下刈り処理別の苗木高推移

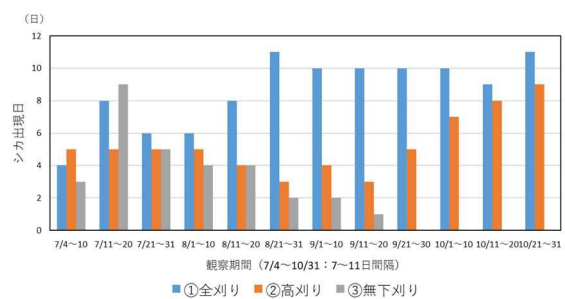


図2 下刈り処理別のシカ出現日の推移

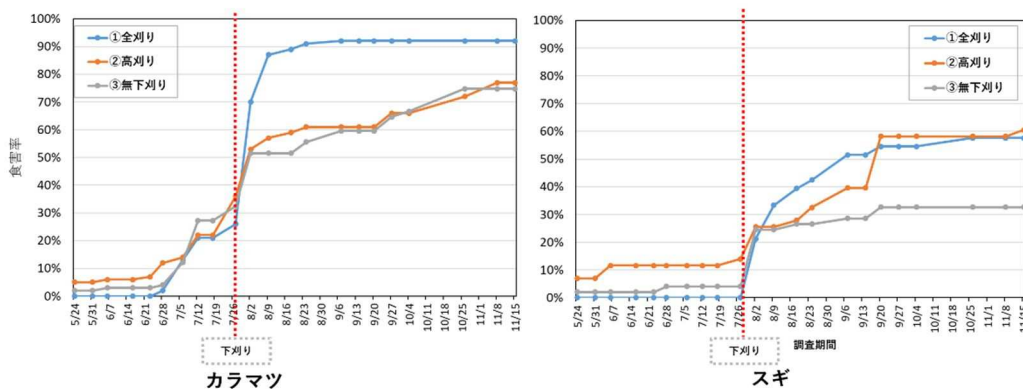


図3 下刈り処理別のシカ食害の推移(R5年5月24日～11月15日)